



明石通信

発行責任者 明石 洋子

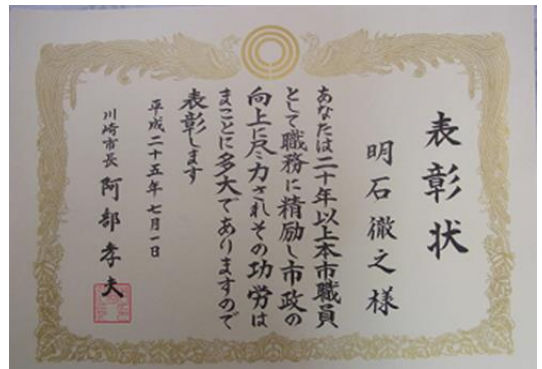
2013年(平成25年)8月15日発行

(厚生労働大臣賞受賞&徹之の40歳を祝う会：川崎日航ホテル11階大宴会場にて)

残暑お見舞い申し上げます。立秋も過ぎて暦の上では秋ですが、こちら川崎は（時には雷雨の集中豪雨もありますが）、雨の少ない酷暑の日々が続いております。梅雨が長かった東北地方、観測史上最高の雨量の地方では人命に係る被害も出ており、不安定な気象に地球環境への不安感を覚えます。天候不順な毎日ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

気温35度の日々の中、徹之は夢見ヶ崎動物公園（加瀬山）の清掃を毎日元気に頑張っております。熱中症にならないよう、フローズン麦茶（徹之命名）と作業着や下着の着替え（1日3組）を持たせて、暑さ対策をしています。

早いもので、徹之の公務員生活も20年を過ぎ、7月2日に右の「表彰状」をいただきました。私がもらった今までのどの表彰より、徹之の20年表彰はとても嬉しく、就労が継続できていますことを、とても感激しております。これも職場をはじめ徹之を支援して下さる皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。徹之の40年の各ライフステージにおいて、また現在も、皆様には大変お世話になっており、有難くお礼申し上げます。



このお祝いも兼ねて、先日6月16日（日）、川崎日航ホテル11階大宴会場にて、「明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞を祝う会&明石徹之さんの40歳を祝う会～『地域に生きる』を支える仲間たちの集い～」が開催されました。企画からご支援くださいましたどう社さんに心より感謝いたします。発起人代表の浅野史郎さんが、案内状（次頁掲載）を書いてくださいました。会の趣旨は、私の受賞を祝うと共に、「障害があってもあたり前に地域に生きる」を支える仲間たちの集いにしようということになりました。発起人の一人、飯塚正良さんが左の素敵な看板を作ってくださいました。

ご案内

明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞を祝う会 &
 明石徹之さんの40歳を祝う会

「地域に生きる」を支える仲間の集い

開会の際、皆様におかれましては、まずまずご清静のこととお慶び申し上げます。
 私たちが敬愛する明石洋子さんが、このたび平成二十四年度厚生労働大臣賞を受賞されました。障がいを持つ人たちが地域で暮らしているための、洋子さんの取り組みとその活躍が、皆様ご存知のとおりです。今回の受賞は、洋子さんにとってだけでなく、私たち仲間にとっても、うれしいことでした。
 そこで、明石洋子さんの受賞を祝う会を開催することにいたしました。これまで洋子さんと共に活動してきた仲間が集う機会です。これまでの苦労を思い、これからの希望を皆様で語り合ひましょう。
 この機会に、息子の徹之さんの40歳と、公務員生活二十周年もお祝いすることといたします。徹之さんの川崎市正職員としての二十周年は、障がいを抱えて多くの仲間たちに勇気と希望を持たせるものでした。洋子さんの活躍も、徹之さんの歩みと共に進められてきました。洋子さん・徹之さん親子にバンザイです。受賞をお祝いしながら、仲間が集い語り合う楽しい会になることとしましょう。
 皆様がたのご出席を、心からお待ちいたしております。

発起人代表 浅野 史郎（元宮城県理事）

発起人

- 内山登紀夫（よこはま看護クリニック院長）
- 飯塚 正良（川崎市市民協理）
- 赤塚 光子（川崎市自立支援協議会会長）
- 平山南見子（元川崎市議会議員）
- 島田 政子（あおぞら共生公民館運営委員会）
- 水井 康幸（川崎市盲ろう聴覚者協会会長）

日時 平成二十五年六月十六日（日）
 午後一時～三時三十分（二時三十分より受付）
 場所 川崎日航ホテル（下記地図参照）
 （十一階宴会会場、TEL044-12441594）
 会費 五〇〇〇円
 お申込み 出欠のご返事を、別紙にご記入のうえ、
 FAXで、五月二十五日までに「連絡ください」
 FAX番号 044-136617254（あおぞら共生会事務局）
 事務局「お問い合わせ先」
 社会福祉法人あおぞら共生会 事務局
 〒210-0848 川崎市川崎区京町一―十六―二五
 TEL 044-36617254 E-MAIL: info@nissai.or.jp



- JR川崎駅東口より徒歩1分
- 京急川崎駅より徒歩3分

（発起人代表浅野史郎さんの開会の挨拶）



上記の案内状のように、主治医の内山登紀夫先生含め7名の方が発起人になってくださいました。発起人代表で「開会の挨拶」をされた浅野史郎さんが、「障害

福祉は戦いの連続。戦う敵は誰か？それは無理解や無関心。明石さんはその先頭に立って『地域に生きる』を実践してきた。今日来ている人々を見渡すとそのお仲間たちが多数。私もその仲間の一人。また初対面の人もいるが、世の中はまだまだ無理解。これからも戦いが必要。共に戦っていきましょう。今日はお祝いの場と同時に、これからの戦いの団結式の場でもある。」と話されました。また「徹之君とは飲み友達。ATLの治療のため骨髄移植や抗がん剤治療で、今はこのように髪の毛がなく帽子をかぶっているが、ピフォア&アフターのピフォアの写真を見て欲しい。」と冗談も言われました。雲仙で開催された「福祉のトップセミナー」の時の徹之とのツーショット写真を証拠に掲載しましょう。



（平成19年10月雲仙にて）



本当に差別偏見は無関心無理解から起きるようです。

私は、知ってもらうことで、理解者支援者を増やしていきましたから、とにかく障害のあるわが子とともに地域に生きて、隠すことなく地域に飛び出しましょう。下記に、浅野さんの当日のブログを掲載します。

（授与式は厚労省にて）

・・・川崎日航ホテルで「明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞を祝う会&明石徹之さんの40歳を祝う会」が開催され、私は発起人代表として、冒頭にご挨拶をする。会の副題は「～『地域に生きる』を支える仲間の集い～」である。まさに、そういう仲間が250人も集まった。明石さんが、自閉症の息子徹之さんを、地域で必死に育てる姿に、多くの同様の障害を抱えた家族が共感し、感動し、川崎市を中心に活動を進めてきた。20年前、徹之さんは、川崎市の正職員として採用され、立派に仕事を続けている。母子ともががんばった結果である。このことに励まされた人もたくさんいる。次々と、新しい水平線を拓いていく明石洋子さんの活動に対して贈られた厚生労働大臣賞である。一緒に支えた仲間にとっても、同じようにうれしいことであろう。そんな仲間の集まりだから、大いに盛り上がった。・・・



浅野さんありがとうございます。会場の皆様もお元気になられた浅野さんを拝見できて、とても喜びました。この日は、共に戦ってくれた仲間たちが一堂に集まり、とても暖かい会になりました。都合がつかずに欠席された佐々木正美先生や大山泰弘会長はじめ120名の方々も、同様なメッセージを送ってくださいました。30名のメッセージはプログラムの裏面に載せておりますが、この通信に7人の方のメッセージを掲載させていただきます。

○中村英彦さん（元川崎市多摩区長、人事課長）「徹之さんは市職になられて20年経ちましたか。市民の為に本当に貢献されました。また支えてこられたご両親様、お仲間の人たちの生き甲斐にもなって大変貢献されたと思います。徹之さんのますますのご活躍を祈念しています。」

○尾上浩二さん・臼井久実子さん（DP | 日本会議事務局長・障害者の欠格条項をなくす会事務局長）
「…知的障害者の公務員採用の先端を切り開いてこられたことは、当時大阪にいた私たちにとっても目指すべきモデルでした。この20年の間に、知的障害者の雇用義務化や就労支援も言われるようになってきましたが、まだまだ、根本のところでは変わっていないように思います。どんな障害があっても、地域で共に学び、働き、暮らせるインクルーシブ社会の実現に向けて、共に歩んでいきましょう！」

○梅田ひとみさん（元佐賀県自閉症協会副会長）「佐賀には明石さん親子が残して下さった、親にとって大切な財産があります。大変感謝いたしております。そして明石さんが来ていただくたびにいつも元気をいただけてきました。ありがとうございます。また近いうちにお会いできますことを楽しみにしております」

○岸田あすかさん（山口県NPO法人シンフォニーネット理事長）「現在地域で活動している親の会は、ほとんどが明石さん親子に出会い、元気や勇気をもらい、前に進んできたと思います。いつまでも明石さん親子の背中を目印に、これからも活動していきます！！」

○上田豊治さん・幸子さん（切り絵作家・友人）「今日まで『地域に生きる』を実行され、ここまで歩んできた徹之さんは、私たちの『希望の星』です。これからもお身体に気を付けられ、地域の中で、前向きに頑張ってくださいね。切り絵の事ががんばっています。」

○山根弘子さん（発達障害児支援教室ほっと代表：神戸）「厚生労働大臣賞のご受賞おめでとうございます。明石さんのような方が表彰されると、私たちもそのことに励まされます。今まで、発達障害の子どもをもつ親御さんたちをどれほど勇気づけてこられたことでしょうか。徹之さんの自立にむけての子育てから、私たちは多くの教訓をいただき、道なき道を拓いてこられたパイオニア精神から、パワーをいただけてきました。ほんとうにありがとうございました。『前例がなければ、私が前例になればいい！』という明石さんの言葉が、いつも私の胸に鳴り響き、鼓舞していただきました。明石さんがいらっしゃったから、私もここまで来ることができたと感謝でいっぱいです。また、明るくひたむきな徹之さんの姿に、どれほど多くの保護者が希望を抱いてきたことでしょうか！夢を形にしてくれる存在が徹之さんだと思います。」

浅野さんの「開会の挨拶」に続いて、「本人挨拶」に移り、私と徹之が挨拶しました。

（「本人挨拶」の徹之）

（案内状の裏面：明石よりメッセージ）

「地域に生きる」を支えてくださり ありがとうございます

息子の徹之も40歳になりました。徹之の公務員生活も20年になります。
40年間の各ライフステージで、「地域に生きる」を共に運動し支えてくださいました皆さまに、
あらためて感謝申し上げます。

このたび、思いがけず厚生労働大臣賞を受賞いたしました。これも皆さまのおかげとっております。
「働く場も地域の中で」と願った親たちが支援者と共に「あおぞら共生会」を立ち上げてから25年の節目の年でもあります。これは明石個人としてではなく、皆さまと共に頂いたものと思ひますし、皆さまと共に喜びを分かち合いたいと思ひます。この機会に、40年間に会った皆さまと一同に会し、語り合ひ、さらなる希望へと飛翔させたいと思ひます。ぜひご出席くださいませ。お待ち申し上げます。

明石洋子


（左から事務局の長谷本葉子さんと司会者の溝井啓子さん・荻野ます美さん

後方に登壇前の一瀬悦朗さん）



徹之は「皆さんこんにちは。明石徹之です。今日は僕の40才のお祝いに来てくださいますて、ありがとうございます。20歳の成人式のお祝いのとき、お母さんが『60才の還暦のお祝いの間に30才、40才、50才のお祝いをしようね』と言いました。30才はお母さんの本の出版のお祝いと僕の絵の展覧会をしました。今日は40才と川崎市の公務員20年勤務のお祝いを、僕が結婚式をあげたかった川崎日航ホテルで、行います。皆さん楽しんで下さい。そして次は50才の時も来て下さい。その前に結婚式があるとうれしいです。では、また後で僕の40年間の話をします。」と挨拶しました。

明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞を祝う会
 &
 明石徹之さんの40歳を祝う会
 ～「地域に生きる」を支える仲間の集い～



2013年6月16日(日) 13:00～15:30 川崎日航ホテル 11階宴会場

司会者挨拶	荻野 ます美さん (NPO法人ゆう副理事長) 溝井 啓子さん (NPO法人チューリップ元気の会理事長)
開会の挨拶	浅野 史郎さん (神奈川大学教授・元宮城県知事)
ご本人の挨拶	明石 洋子さん・明石 徹之さん
オープニング	
【三線】で祝い唄	一瀬 悦郎さん (弁護士・野村流古典音楽保存会教師免許)
お祝いの言葉 その1	三浦 淳さん (川崎市副市长) 飯塚 正良さん (川崎市議会副議長)
乾 杯	渡邊 直美さん (川崎市教育委員会教育長)
	【 歓談・交流 】
三線演奏	一瀬 悦郎さん (同上)
徹之さんの言葉	明石 徹之さん「ありのままにありまゝに生きて僕ほひょうきんな公務員になった ～いままでとこれから～」
お祝いの言葉 その2	「地域に生きる」を支える仲間たち (5～7名)
	【 歓談・交流 】
お祝いの言葉 その3	「地域に生きる」を支える仲間たち (5～7名)
いとこ応援歌	うすいまさとさん (シンガーソングライター)
花束贈呈	
挨拶	明石 邦彦さん
閉会の挨拶	内山登紀夫さん (よこはま発達クリニック院長・福島大学大学院教授)
お見送り	明石洋子さんと徹之さんがお見送りをします。



お祝いの間に30才、40才、50才のお祝いをしようね』と言いました。30才はお母さんの本の出版のお祝いと僕の絵の展覧会をしました。今日は40才と川崎市の公務員20年勤務のお祝いを、僕が結婚式をあげたかった川崎日航ホテルで、行います。皆さん楽しんで下さい。そして次は50才の時も来て下さい。その前に結婚式があるとうれしいです。では、また後で僕の40年間の話をします。」と挨拶しました。

左は当日のプログラムです。

「オープニング」は、福岡から日帰りで、演奏のために来てくださった、弁護士で三線の教師の**一瀬悦朗さん**が、「歌三線」を披露してくださいました。一瀬夫妻は、郷里福岡の友人で、素敵なお嬢さん二人が、花組と雪組のタカラジェンヌです。

(ぶどう社の市毛さやかさん作成の「プログラム」)

私の宝塚観劇が増えている理由でもあります。さて、私も(たぶん会場の皆様も)「三線」を生で聞くのは初めて。一瀬さんは素敵な三線演奏と歌をご披露してくださいました。演目は「かぎやで風節」。「今日の嬉しさを何に例えようか、蕾んでいる花が朝露に出会って、一気に花咲くような気持ちだ」と言う沖縄本島で約500年にわたって謳い継がれている座開きの祝い



(一瀬悦朗さんの三線演奏)

歌とのこと。オープニングにふさわしいとても格式のある歌と演奏で、会場の皆様と共に感激しました。一瀬さん、素敵なプレゼントありがとうございました。

最初の「祝辞」は、三浦淳川崎市副市長様と飯塚正良川崎市議会副議長様。お二方とも、公的な祝辞でなく、私どものエピソードをたっぷりにお話してくださいました。

三浦副市長様は、川崎市自閉症協会（会長明石）の総会などでのご挨拶や行政交渉等々で、
（三浦副市長様祝辞）



親の会活動には多大なご理解とご支援をいただき、日頃よりとても感謝いたしております。

祝辞のご挨拶に、川崎市の福祉行政のお話の他、6月8日（土）に文京シビックセンター26階スカイホールで開催された「第



（文京シビックセンター26階控室にて）

4回地域支援フォーラム～ユニバーサルな地域作りを目指して～」のお話もされました。奥様と一緒にプライベートで、私どもの講演を聴きにいられました。副市長の祝辞をお聞きしながら、より深く私と徹之の活動をご理解いただけたことがわかり、感謝です。この講演会は、文京区から頼まれて、徹之と一緒に「誰もが当たり前に働ける地域を目指して」と題して講演をしました。講演後に



「共に地域に生きる」の実現は、親家族含め地域の人々の価値観が重要！

啓発：心のバリアフリーを願って

～ 障害がある人もない人も、共に生きる街に～



*12月9日：障害者の日
（3日～9日：障害者週間）
川崎市障害者団体部会は
12月の第1土曜日に市民啓発活動

徹之の天才(学研撮影)



障害者が障に任んでも当たり前、障で働いても当たり前となる 共に生きる社会に

誤解だらけの自閉症

「母親病」と言われ、人格を否定された母親たち（敬に子愛しや解理心する、悲しい事件が後を立たない！）

*国連 4月2日：世界自閉症啓発デー（2日～8日：発達障害啓発週間）

①文字が示すように自閉の檻に閉じこもって打ち解けないというような障害や状況ではありません
②乳幼児期に不適切な教育をされたため、親たちに不信感を抱いて、心を閉ざしてしまったという
ような、情緒障害でもありません（24年5月 大阪維新の会「家庭教育条例(案)」は誤解と偏見）

⇒自閉症は生まれながらの脳の機能障害といわれています

副市長ご夫妻が会場におられたことを知り、主催者ともどもびっくりしました。個人で申し込みされていていらっしゃって（事前申込制）、本当に驚きました。控室での徹之とのツーショットを載せます。（一職員として副市長とのツーショットは光栄！）

文京区では、グループホームの建設に対して、「障害者が

（←文京区での講演のスライドより1枚）



近くに来るのは危険極まりない。地価が下がる」と地域住民の反対にあっているとのことで、徹之への講師依頼が来しました。当日区民の方が多数来られていましたが、講演後の反応はいいとのことで、ホッとしました。文京区民の「ノーマライゼーション」が試されていますね。今、日本中が

「障害がある人もない人も共に生きる街に」をスローガンに、ノーマライゼーションの実現に向けて、条例や福祉計画に「共生社会」を謳っていますが、まだまだ住民の意識のバリアは残っているようです。



「同情や憐れみや差別偏見を受ける」は、それは知らないからと思っています。私が徹之の母でなかったら、今でも「障害者はかわいそう」と同情していたでしょう。ですから私は誰も責められません。徹之を授かったおかげで、人権に関する条約や法律や制度を知り、また徹之からも多くのことを学びました。正しい理解と適切な支援の為には、とにかく知ってもらうことです。「明石通信」もそのツール。（電機連合関係者：

左から志賀利一さん・高野とも子さん・実野輝夫さん・加藤一男さん）

（飯塚副議長）

さて、祝賀会の話に戻しましょう。



次いで、**市議会副議長飯塚正良さん**に祝辞を頂きました。先生が市職労から議員になられた時（22年前・平成三年）に、加藤一男氏（元電機連合福祉相談員・現在あおぞら共生会の専務理事）の紹介でお会いしました。徹之の働く場の紹介だけでなく、



あおぞら共生会にも多大なご支援を頂きました。祝賀会には、先生の著作「共に生きる～飯塚正良の15年～」（冊子掲載）の本の中に徹之の話を書かれた箇所（127～130頁）を、250部コピーして皆様に配布されました。議員生活22年、副議長おめでとうございます。また公務員チャレンジの当時、大変お世話になりました電機連合の方々も祝賀会に来て下さいましたので、お礼とともに、記念写真を右上に（武居光さんが入っていないのは残念でした）。



さて、祝電も沢山いただき、司会者（愛知県豊川市の「ゆう」の荻野ます美さんと埼玉県川越市の「チューリップ元気の会」の溝井啓子さん）から、祝電の紹介がなされました。この紙面でいただいた**祝電の披露**をいたします。

○**福島豊様**（福島内科医院院長・元衆議院議員・発達障害者支援法議員連盟事務局長）：

「明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞を祝う会並びに明石徹之さんの40才を祝う会のご

盛會を心よりお喜び申し上げます。長年のご功績を讃え、栄えあるご受賞を心よりお祝い申し上げますとともに、

(第4回ヘルシーソサエティ賞授賞式
(4部門各1名受賞：全4名)

福島先生と帝国ホテルにて)
(中央内多さん：明石の招待客)

今後ますますの
ご健勝と一層の
ご活躍をお祈り
申し上げます」
平成20年2月、
福島先生と細川佳



代子さんの推薦で「第4回ヘルシーソサエティ (左の花は清水明彦さん・右は細川佳代子さんより)
賞(ボランティア部門)」を受賞しました。その時の写真を右上に
掲載します。福島先生ご推薦ありがとうございました。



○あべひろみ様(「うちの子かわいっ親ばか日記」著者。祝賀
会の「プログラム」のカットを描いてくださいました)：「本日は
おめでとうございます。私は、地域を耕しながら徹之さんの思いを育てていく洋子さんの姿
に感動しました。とんでもないスケールのでかい洋子さんですが、『親ばか』という共通点
からとても親しみを感じています。私も娘の思いに寄り添いたいと日々修行中です。また、
徹之さんのご活躍に『自分も頑張ろう』と思いを膨らませる仲間も全国にいることでしょう。
ありのままで自分らしく生きていける自閉症の人が増えますように。これ
からもますますのご活躍をお祈りいたします」



○佐賀県自閉症協会会長古賀利治様・会員一同様：「明石洋子さん、おめ
でとうございます。障害を持つ人たちが地域で暮らし続けるために、続け
てこられた取り組みの一つ一つは、私たちの模範であり、目標でした。これ
からもますますのご活躍をご祈念いたします。徹之さん、これからお
仕事がんばってください。」 (厚生労働大臣賞・ヘルシーソサエティ賞・著作の本等展示)

その他、お名前のみ掲載いたします。千葉景子様(元法務大臣、弁護士)、田中和則様(衆
議院議員、環境副大臣)、小柳真由美様・拓人様(親・当事者)、後藤ちとせ様(岐阜アス
ペルデの会)、杉山多恵子様(品川区親の会)、(株)ファーコス社長島田光明様、神奈川県
自閉症協会会長内田照男様(日本自閉症協会理事)、(社福)ホテルの郷施設長川口弘様、(社団)
子どもの発達研究所片山泰一様・和久田学様、
川崎信用金庫理事長草壁悟朗様、佐賀有明会・
301会(山本様)、柴崎忍様(京都・医師)。

また、会場にスタンド及びアレンジメントのお花



(渡邊教育長より乾杯のご発声)

もたくさん届き、会場が華やかになりました。送り主をご紹介します。川崎信用金庫理事長 草壁悟朗様、(社福) あおぞら共生会職員・保護者一同様、川崎市自閉症協会様、井上芳雄様（俳優・帝劇「二都物語」）、細川佳代子様（元首相夫人・NPO青年の翼理事長）、おかゆの会様（十勝）、氏田照子様（JDD事務局長）、清水明彦様（西宮市社協事務局長）、宮本ひろ子様（青森小さな森保育園園長）、樋田昌美様（千葉・親）、佐藤恵美子様（川崎・親）、木村英一郎様・あゆみ様（東京・親）、平岡隆志様（名古屋・親）皆様、宝塚観劇友人（小池玲子様・山中登美子様・小峯信子様）・・・本当にありがとうございました。これらの花々が会場の雰囲気をも明るく豪華にしてくれましたし、参加者の皆さまにお帰りの時お持ち帰りいただきましたので、各ご家庭できれいな花を咲かせて、心豊かにしてくれていることでしょう。

祝電披露の後、「乾杯」です。（渡邊教育長様、小1の写真持参）

「乾杯」の音頭は、**川崎市教育委員会教育長の渡邊直美様**。実は徹之が小倉小学校1年生の時に世話になった先生です。渡邊先生も徹之もほやほやの一年生。乾杯のご挨拶に、「専門性もなく、何をしたらいいか悩みながらの徹之君と付き合った1年間でした。徹之君との1年間は自分の教育の原点であり、いつも心に残っており、今も原点と思っています」と言われ感激！！しかも33年前の徹之の写真を会場に持参されました。当時の写真を大切に保管されていらっしゃるのに、副市長はじめ皆も驚き、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。先生からお借りした、初々しい教師1年目の教育長と小学一年生の徹之の写真を掲載します。徹之は、今も変わらずに、



交通標識や交通地図（地名）にこだわっておりますが、当時は更に自分が書いた紙（作品）を常に持ち歩いていたので、左手は使えません。まだ会話の言

(33年前の、新任の渡邊先生と、新一年生の徹之です)



(左手に作品)



(逃走中)



葉もなく、こだわりだらけの超多動の小1の徹之の写真です。いつも教室から逃走してしましたね。写真のように渡邊先生は温かいまなざしでじっくり付き合ってくださいました。

さて、開始から30分が過ぎたところで、食事と歓談の時間になりました。そして、約30分の食事&歓談の後、司会者から「飲食しながら、演奏や祝辞をお聞きください」と伝えていただいて、再び**三線演奏**からスタートしました。

一瀬悦朗さんに再登場していただき、2曲目は、「二揚げ仲風節」の歌と演奏。誠実な生き方を歌ったものだそうで、一瀬さんから「今日のこの会は、明石洋子様、徹之様お二人が、日々、どなたに対しても誠実に接してこられたことの証（洒落ではありません）だと感じております。このような人でありたいとの思いも込めて歌わせていただきます」とのメッセージをいただきました。温かいメッセージと有難い三線の演奏に感謝！！三線の音色と歌を堪能しました。



（徹之スピーチ）

その後は、**徹之のスピーチ**です。配布資料に入れた40年間の思いと生き様の12枚のパワーポイントをスクリーンに映しながらお話ししました。3枚掲載します。近況写真は、5月10日発行の日本障害者リハビリテーション協会の機関誌「ノーマライゼーション」（5月号）の巻頭グラビアの写真を転載。徹之の話のスライド2・3・12枚目を掲載します。

では、僕の現在の職場と地域生活の様子を、25年5月発行の「ノーマライゼーション」の写真で説明します。まずは職場での僕の様子を5枚の写真から。



（チェックを入れて確認しながら、几帳面に誠実に仕事をします）
母より、かわり方の留意点を記します。

特性として、「ちゃんと仕事をしなさい」など抽象的な言葉は本人には伝わらないので、具体的で視覚的な「手順書」等の合理的配慮が必須です。本人がわかる方法と肯定的な指示を願っています。

＊「周囲の人間の『ノーマライゼーション』が強く試されているように思えてならない」・・・この言葉は、取材された記者さんが書かれた本文の記事。「障を備いてもあたり前」となる世の中が来る気が・・・



（仕事を養って奉還につく徹之。
仕事は大事だけれど疲感を感じて）

（幼少時に遊んだ公園。変わらぬ景色の中で
黙々と働く、自立した40才の徹之）



次いで、地域での暮らしの様子です。毎日ホームヘルパーさんとスーパーで待ち合わせて、買い物をして（お酒を買いすぎないように注意！）自分で夕食を作ります。月1回位、ガイドヘルパーさんと遊びに行きます。昔は、旅のパートナーさん（ボランティアさん）と宿泊旅行も行きました。あおぞら共生会の方々が、「親亡き後も地域で生きる」の最高の支援者になります（期待！！）。



（床屋さんやスーパーで）＊親亡き後でも地域で生きるためには、親いる今から「地域で共に生きる」が大切



（「自分らしく、あたり前に、地域で生きる」を保障するために、「欲しいサービスがないなら自ら作るしかない」と設立した「あおぞら共生会」は、今は13の事業拠点をもって、当事者発・地域発の地域生活支援を展開中。親いるうちにすべきことをしよう！）

（「とにかく知ってもらおうこと」と、「てっちゃん便り」から「明石通信」へ、28年以上啓発活動継続中）

働いたお金は僕の好きな物を買ったり、旅行や趣味に使います。働いたお金を、自分の趣味や楽しみに使えるのが嬉しいです。



中国華人福祉大会(香港)で講演



第20回アジア会議にて 韓国主催者と日本育成会北原理事長と（チェジュ島）

次の僕の夢は、結婚して「明石徹之ファミリー」を作ることです。子どもの名前も決めていて、「明石まいちゃんと守君のお母さんを探してください」と、お母さんに頼んでいます。僕は結婚をしたいです。

お仕事がんばりますの次は、結婚がんばります。これからもお仕事をがんばりますので、「隣で暮らしてもあたり前、隣で働いてもあたり前」の、共に生きる社会になるよう、どうぞよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。これからも「地域に生きる」を支えてください。

韓国KBSスタジオで



休日はサイクリングに

徹之のスピーチの次は、「うすいまさとさんの歌（いいとこ応援歌）」です。

この様子は、そうたママ（樋田昌美さん）のブログから転載しましょう。

明石洋子さん&徹之さん祝賀会☆

6月16日（日）は 私がとーっても尊敬している方！そう！

『明石洋子さんの厚生労働大臣賞受賞&徹之さん40歳をお祝いする会』へ行ってきました♪

明石洋子さんは 自閉症の息子 徹之さんの子育てを📖書いた本の作者ですよ



会場は 川崎に日航ホテル

なんとっ！ 240名の方がお祝いに



駆けつけましたよお♪（それも すごい方々がっ）

うすいまさとさん登場！ なんと この日は サプライズ！！

うすいさんが『てっちゃんソング』を作ってきて初披露！

横の大きなスクリーンには パワーポイントで作った画像も一緒に流れ

楽しい〜♪ うすいさんの歌に ノリノリの徹之さん

あっ なんかこれ見たことある・・・

そうそう3年前のうすいさんのライブに行った時

に徹之さんと会った時だっ👉

だんだん 横揺れが激しくなる 徹之さんっもう

ほとんど見えないくらい速いっ きっ消えたっ

とっっても素敵な歌に明石洋子さんも感涙っ💧

2番の歌詞の最後「結婚頑張ります」で

まさかの（私の）イラスト！

ありがとう💎 うすいさんっ

☆ハハハ♪のてっちゃん☆



私 何にもしてないけど・・・

なんか私も一緒に製作に参加できたみたいで嬉しかったです🍷（厚かましいな）



以上、樋田昌美さん（右写真中央）のブログから転載。

さて、宴もたけなわ。次は会場の皆様からお祝いの言葉をいただきました。

北は北海道から南は九州まで。アメリカやイギリスからも。福祉や教育、医療、法曹界、文化芸術分野、マスコミ関係（出版社やテレビ、新聞社）、行政や議員、近隣の方々等、専門家も親も当事者も、多くの方々に来て下さいました。まさに異文化交流の場になりました。

「地域に生きる」とはいろいろな方々と「共に暮らす」ですものね。自閉症専門家や行政、弁護士、大学教授等著名な方々も多く来られましたが、皆さまからスピーチをしていただく時間もなく、各分野ごとに遠方から来てくださった方を優先して、14名の方にスピーチをしていただきました。

お写真と関係とお話の内容を簡単に記します。スピーチの全部の内容はDVDに収録いたしております。スピーチされた方で、DVDがご入用な方はご連絡くださいませ。会場の皆様には、8枚の色紙を回覧させていただき、スピーチの代わりに、メッセージを書いていただきました。その色紙を2枚だけですが、19ページに掲載いたします。



(内多さんと「お仕事ががんばります」のポスター)

「お祝いの言葉」



○**内多勝康さん**（NHKアナウンサー）：我が家のドキュメント番組や「生活ほっとモーニング」の生出演等を企画プロデュースされ、徹之のマスコミデビューのきっかけになった方です。スピーチで、「1999年夏に、テレビ出演交渉に行ったが、洋子さんの拒否に会い、1時間訪問の予定が口説くのに8時間もかかった」等のエピソードを話されました。（でも出演してよかった！）わが家のイベントにすべて参加され、

時には司会もしてくださり感謝！今回「生放送があるので欠席」のご連絡でしたが、特番が入って生放送が中止となり、祝賀会に参加。ご縁がある！徹之の強力な支援者！！



○徹之が配属された職場の上司3名：**長谷川功さん**（元生活環境局堤根処理センター副所長）・**能勢象一郎さん**（元健康福祉局多摩川の里所長）・**松井久美子さん**（元健康福祉局長寿



荘所長）：どなたも、徹之の特性をプラスに見てくださって、「性格は明るく付き合っていて楽しい。仕事は規則正しく丁寧」との評価のスピーチをいただきました。「具体的・視覚的・肯定的」な「合理的配慮」ある関わり方を自然にしてくださいました。それで「やるべきことが

正確にわかり、徹之がきちんと仕事のできたのだ」と感謝しています。長谷川さんは仕事帰りのカラオケにも徹之を連れて行ってくださって、お父さんのような存在でした。



能勢さんはNHKのドキュメントにも登場されており、温かいまなざしが印象深く、松井さんは徹之の長寿荘の異動の時に、「こんなに成長して」と超多動の子ども時代を知っているだけに、涙ぐんでいらっしゃいました。本当に徹之をありのままに認めて特性を強みと感じてくれる、心優しい上司に恵まれたので、公務員生活が継続できたと感謝しています。仕事ができるのもできないのも、その職場の上司の価値観や感性次第の所があります。

今までの「医学モデル」（障害の克服・変わるのは障害者）より「社会モデル」（社会参加を阻害しているバリアを除く・変わるのは社会）と、ICF

（生活機能分類）の障害の視点が転換しましたが、本当に環境次第と痛感します。「合理的配慮の不提供、すなわち障害特性に応じた職業指導の欠如は差別」と、6月に成立した「障害者差別解消法」に謳われ、合理的配慮が義務化されましたので、これからは障害者も働きやすくなることでしょう。しかも「啓発は行政の責務」になりましたので、啓発が進みますこと期待しています。



○佐藤みちるさん（釧路の「つくる会」）・
大松澤勝子さん（十勝の「おかゆの会」）：
共に発達障害をもつ子のお母さんです。

（帯広すずらん公園の桜）



17年前の北海道の講演会での出会いから、私どもは毎年のように北海道に伺って親交を温めています。「明石さんの『人が財産』の実体験に基づく言葉に衝撃。『公務員になれ、自立することができたのも周りのご支援のおかげ』という話を聞いて、ネットワーク作りを考えた」とのこと。「明石さんがまいた種を大切に、今それを育て、花を咲かせたい」とお話しされました。

（足湯：おかゆの会の皆様と）

10数年前から私どもの北海道講演旅行を企画されたのは、元北海道教育大学の伊藤則博教授（残念ながら欠席）。メッセージに「お二人がこれまで北海道の親・子と関係者に与えてくださった激励と支援に感謝いたします」と書かれていました。先生のお弟子さんたちが、北海道各地で、親たちと共に「地域に生きる」を運動されていて、嬉しい限りです。



今年の5月も「おかゆの会 10周年記念講演会」に呼ばれて、十勝帯広に行きました。帯広のすずらん公園の桜が満開でした。3月末に地元川崎で、4月末には会津の鶴ヶ城で満開の桜を見ましたが、5月末の北海道の満開の桜は紅くみごとでした。また肌がすべすべになるモール温泉の、公園内の足湯も快適！しかも無料です！！（写真2枚掲載）

○井上哲雄さん（西南大学教授）：九州大学同窓生。私は自閉症児の母になり、井上さんは自閉症研究者。20年以上前に福岡で講演依頼があり、自閉症セミナーや講演会等でも一緒にしています。学科長をされている西南大学の福祉学科の10周年記念講演も頼まれ、徹之と大任を果たしました。プライベートでは、奥様も一緒に観劇を楽しんでいます。「明石通信」に毎回登場しているミュージカルスター（昨年の俳優部門で人気No.1）で、帝劇「二都物語」に出演中（主役！）の井上芳雄君のお父さまです。祝賀会には芳雄君からスタンド花も届き感激！配布資料に「二都物語」のパンフレットを入れましたら、横浜の日浦美智江さんが「孫が二都物語に子役出ている」とのこと。芳雄君のご両親と初顔合わせ。世間は狭い！嬉しい話！！



（「ウエディングシンガー」公演直後の楽屋にて）

（西南大学講演会にて：平成22年
井上夫妻・一瀬夫人と）

（井上芳雄さんより）

○熊本葉一さん（岩手県自閉症協会会長）：ご参加の奈良県や千葉県等他県の自閉症協会を代表してお話しを。熊本さんは、NHK「お仕事ががんばります」を見て、8才の息子の将来を考え、遅れている岩手を変えるために、10年前（2003年7月）講演会を企画。奥様からの講師依頼のお電話で、一関に伺いました。「当たり前地域に暮らすという話に感銘を受け、小学校の体育館に集まった教育・医療・福祉の関係者の協力のもと、『街作り研究会』を発足。それが今の『ええ街づくり隊』になって、岩手県域に広がっている。これも明石さんが種をまいてくれたおかげ。また徹之さんは今19歳になる息子の将来の目標」と話されました。「会長にもなって活動してきたが、東日本大震災で自閉症児者への無理解を痛感し、更なる啓発の必要性を実感した」とのこと。「明石さんがまいた『地域の中で』の種は、確実に北海道や東北にも広がり育ってきている。しか



し地方はまだまだ自閉症の理解は遅れているので、川崎から日本中に啓発をしてください。私も共にがんばりたい」と話されました。小学2年生だった息子さんがもう成人になるのですね。「隣で暮らし、隣で働く」ことがあたり前になるよう、皆さん共にがんばりましょう。



○**斎藤悦子さん**（川崎市自閉症協会事務局長）：彼女の再度の依頼で私は川崎市自閉症協会



会長になりました。「10年前に、厚労省の冊子に『明石洋子・川崎市』と書かれていて存在を知った。ぜひ川崎市自閉症の親の会で活躍してほしいと、高いケーキを買って自宅に訪ねて行ったら、ご主人が『そんな伏魔殿のような所には洋子は出せない』とけんもほろろ！しかしねばって数回会う内に会長を引き受けてくれた。感謝！入所施設指向だった会が「地域に生きる」に変身

し、若い親の入会者が200名近くもきた。明石洋子パワーがさく裂！とにかく親が勉強しなくてはと、講演会や研修会、さらにNHKハートフォーラムや発達障害啓発イベント（5回開催）等々、活発に活動して、川崎が一躍有名になった。今日は、親の会の30年記念誌「ようこそ自閉症ワールドへ」（イベント等も掲載）と毎年教育委員会と懇談会を行ってその結果作成した「自閉症の子どもの理解とよりよい支援をめざして」の冊子を持参したので、関心のある方はご自由にお持ち帰りください」と話されました。最後に「伏魔殿に送り出してくださった邦彦さん、ありがとうございます」で締めくくられ、そのユーモアたっぷりの話に会場は大爆笑！！川崎は更にながります。

推薦しますジェイミーのコンサート

自閉症はじめ、障がい者の自立は、本人の努力よりもむしろ環境、市民の方々の深い理解と適切な支援、温かいまなざしにかかっていることが多いと思います。

差別や偏見は知らないから起るようです。「違ってOK、自閉症でOK」と伝える第一歩は、とにかく知っていただくこと。ジェイミーのコンサートが皆様の理解を促してくださること心より感謝しています。

親として「障がいがあっても老境の中で普通の暮らしをさせたい」と願っています。

川崎市自閉症協会事務局長・社会福祉法人あおぞら共生会理事 斎藤悦子

過去の演奏会

- 第1回 2004年11月18日 小川典子ピアノリサイタル
- 第2回 2005年5月26日 期市正史ピアノリサイタル・ピアノコンサート
- 第3回 2006年2月9日 小川典子ピアノリサイタル
- 第4回 2006年10月10日 川島成道・小川典子ヴァイオリンとピアノコンサート
- 第5回 2007年5月31日 小川典子ピアノリサイタル
- 第6回 2008年3月6日 徳永二男・小川典子ヴァイオリン・ピアノコンサート
- 第7回 2008年11月19日 鮫島有美子・小川典子ソプラノ・ピアノコンサート
- 第8回 2009年6月4日 田原智子・小川典子ピアノデュオコンサート
- 第9回 2010年6月3日 徳永二男・小川典子デュオ・ピアノコンサート
- 第10回 2012年6月21日 小川典子ピアノ・リサイタル

（平成25年10月3日のジェイミーのコンサートチラシ）

小休憩後、後半の「お祝いの言葉」が続きます。

○**小川典子さん**（ピアニスト）：イギリスから祝賀会

参加のために帰国されました。感謝！ ジェイミーのコンサートを主宰されており、祝賀会には事務局の竹内啓介さん（あおぞら共生会理事・歯科医）はじめ実行委員の方々も参加されていました。私は市民への啓発の機会と思い、コンサート前に自閉症に関するミニ講演を毎回しています。毎回チラシに、徹之と共に「推薦します」のメッセージが載っています。（*チラシ掲載）

第11回ジェイミーのコンサート
 Jaime's Concerts 障がい個性を愛するために

鮫島有美子
 ソプラノ・リサイタル

共演
 小川典子ピアノ
 明石洋子 プレトーク

特別ゲスト
 ジェイミーの姉
 ソプラノ・キャメロン
 (ヴァイオリン)
 ロンドンから遠道来日！

～曲目～
 ベルシエルの2つのアヴェマリア
 小島俊成のたね
 勃拉姆斯
 花のよる
 月の光(フォーレ)
 3つのアヴェマリア
 福澤・高橋実
 ハリと
 愛の詩(ワグネル)
 ななつぼし(ロヴェット)
 夜曲
 Schubert's march over the
 Tchaikovsky's march

自閉症児・障害児の応援をさまざまな方に
 送り渡る前1年のジェイミー少年と過ごした2年間を
 記録して語る一流音楽家による心を揺るがす大人の
 コンサートと懇談会

2013年10月3日(木)
 ミューザ川崎 市民交流室

開場 10時30分
 開演 11時00分
 懇話会開始予定 12時15分
 入場料 3500円(自由席)

チケットお申込み・お問い合わせ
 アーツ・アイランド
 電話 03-6914-0353 FAX 03-6914-0586
 主催・問い合わせ：ジェイミーのコンサート事務局
 電話 044-511-2955

11回目になる次回は10月3日、「ミュージア川崎」で、ソプラノ歌手の絞島有美子さんをゲストにお招きして（ピアノ小川典子さん）。皆様、お誘い合わせのうえご来場ください。 毎年の開催を、お楽しみに。



○大門亘さん（PandA—J大門明石塾の塾長）：「塾長大門・副塾長明石」で、PandA—Jが3年前に開設した塾です。現在3期生120名の皆様と共に、障害者が地域で暮らし続けるために必要な権利擁護について、成年後見制度等の法律や制度を学び、課題を研究をしています。その為に障害がある人の地域での支援の現状を知り、お互いの知識を共有して、権利擁護の仕組みなどを提案できればと思っています。祝賀会には、PandA—Jの代表の堀江まゆみ先生、大石剛一郎先生（あおぞら共生会監事・弁護士）はじめ塾生も多数参加して下さいました。広い知識と見識のある大門先生は成年後見の実践者。「人生の晩年に、皆と出会えて、障害者の



（結審の日の傍聴後、東京地裁前で）

（塾生、板垣京子さん作成の「祝賀会写真一覧」ありがとう！）



地域生活の実態や思い等を知り、地域で生きる活動に関わられて幸せ」と話されました。

私どもの「地域で生きる」実践と、法律や制度やシステム課題を整理してご教授くださり感謝です。また月1回の塾開催だけでなく、塾生と共に「被後見人の選挙権回復裁判」の支援等々含め多くを学んでおります。進化し続ける「大門明石塾」です。

○**青山春美さん**（コスモスの花元理事長）：我が家のドキュメント番組が放送された直後の千葉での講演会（2000年）に、自閉症児のお父さんである竹蓋さん（現千葉県自閉症協会副会長・祝賀会参加）を同伴してご挨拶に来られ、その後お二方と親しくお付き合いさせていただいております。青山先生は「明石さんの本とNHKのDVDを、日本全国更に息子が働いている上海にも紹介しました。ぶどう社の一番の販売功労者」とのこと。教育者として香取市で「コスモスの花」を創設。私の子育てを褒めていただき、親たちがポジティブになるよう、私の本などを紹介してくださっています。1999年11月に「笑顔で街に暮らす」がNHK総合TVで放送され、また戸部けいこさんのコミック「光とともに」にも「徹ちゃん便り・明石通信」が載り、日本各地で「通信」を発行される親御さんが沢山増えました。特に竹蓋さん作成の「しんいちろう通信」は漫画入りで楽しいです。



○**並木隆さん**（元地福協理事長）：一昨年私を「市長賞」に推薦してくれた母体で、推薦理由など話されました。「市長賞」受賞者から、川崎市が「厚生労働大臣賞」の候補者を選び推薦して、厚労省からの審査のもと受賞が決まるようで、市長賞に推薦していただいたことが今日の祝賀会につながっています。推薦理由は、「育成会活動として『手をつなぐ』の編集委員や自立ハンドブック『からだ！げんき？』の本の執筆、組織財政委員等の全日本育成会での長年の活動、また川崎市育成会を代表して全日本育成会の評議員を長年務め、また川崎市育成会理事等の活動歴が20年以上あり推薦しました」とのこと。並木さんは、現在は「かわさき権利擁護センター」理事長で、私は副理事長として川崎における障害者の権利擁護を共に活動しております。



○**島田政子さん**（あおぞら共生会保護者会会長）：幼児期の地域訓練会（島田さんは田島地訓会長・私は幸地訓会長）から、保育園入園運動、就学、就労、地域生活等、「ひまわり父母の会」や更に「あおぞら共生会」で、親の会活動を共に長年してきています。その経過や現在のあおぞらでのバザー等、親の活動を話されました。

(村越さん・仲本さん・寺井さんより花束贈呈)

次いで、最後のセレモニーに入ります。

「花束贈呈：色紙贈呈」



明石一家（政嗣・泰希も）が壇上に呼ばれました。徹之には、中学校の恩師だった**村越淑美さん**（現田島養護学校教諭）、私には、遠路アメリカカリフォルニア州から帰国された**仲本博子さん**（仲本さん紹介で、2000年8月にサンノゼにてPHP主催の講演会）、邦彦さんにはあおぞら共生会の事務局の**寺井弘美さん**から花束をいただきました。その後更に、

会場の参加者からの花束を政嗣や孫の泰希も頂きました。

上記のような「色紙」8枚に会場の皆様にメッセージを書いていただき、きれいに包装して、あおぞら共生会の13の事業の一つ「**日中一時支援エコー**」の利用者さんから頂きました。利用者の高校生がスタッフさんと一緒に贈呈です。ありがとうございました。

(エコーの皆様より色紙贈呈)



「お礼の挨拶」

あおぞら共生会理事長であり家族（家長）の明石邦彦から皆様へのご挨拶です。今日のご参加のお礼と、あおぞら共生会の理念と現状、将来の展望更に自分は「虫取り」をしたい等話し、「徹之からの皆様へのお土産はイタリア焼菓子」と続け、鎌田さんにパトタッチ。あおぞら共生会の新しい事業である「プルチェロ」（お店）の職員の鎌田亜里沙さんは、「今回徹之さんから大量の注文を受け、皆で心を込めて作ったイタリア焼き菓子です」と5種類のお菓子の成分なども



説明をされ、「自分たちで一生懸命作りました。おいしいですよ」と利用者代表の二人がご挨拶しました。

（イタリア焼菓子です！）



（家族壇上に。孫の3才の泰希も参加。愛くるしさに

親バカから更に「ばばバカ」になった私！）

「閉会の挨拶」

内山登紀夫さん（発起人挨拶）：発起人として皆様へご参加のお礼と、今日の感想を述べられました。先生は「私は徹之君の主治医であり、洋子さんの友人というか弟子であります。」と言われました。弟子・・・？

よこはま発達クリニックの院長であり、福島大学大学院教授で、TEACCHの第一人者です。「10年前の明石さんのイベントで、『自閉症児者はまだまだ生きにくい世の中』と話したが、10年たった今でも自閉症の啓発は足りない。地方ではまだまだ無理解が現状。しかし明石洋子さん・徹之君の存在は大きい。当事者・親・関係者に勇気と希望を与え、励ましている。今日皆の話を聞き、改めてそれを実感した。自閉症への貢献を考えると今回の受賞はむしろ遅いくらいだ。国民栄誉賞もぜひとってほしい。自分は精神科医だが、『薬より明石さん』と思う。」と言われま



した。更に「浅野さんが最初に挨拶されたように、まだまだ無理解と戦わなくてはならない。しかしこの業界は一致団結が苦手。しかし今日お集まりの方々はじめ、洋子さんの周りにはいろんな人が集まってくる。人柄だろう。

コアになるのは明石さん、第一線でこれからも頑張ってもらいたい、私が生きている限り、戦いのサポートをします！」と、力強いメッセージをいただきました。身に余るお言葉に、心より感謝です。会場の皆様からの温かいお言葉で、私はさらにエンパワメントできました、今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。

さて、これで祝賀会行事は終わり、11階ロビーの金屏風の前で「お見送り」です。お帰りの皆様にお土産をお渡しして、ご挨拶や握手や記念写真撮影を受けたりしました。下記に会場の風景を10数枚掲載します。



(祝賀会準備を一手に引き受けてくれた
事務局の寺井弘美さんと澤由香さん)

心して暮らすために」というテーマで7ページほどの原稿依頼です。法律の専門家の中で、親の私が何を書いていいか迷いましたが、～知的障害の子をもつ親からみた成年後見制度の課題～との副題をつけて、「現行のままではなぜ使えないか」の課題を提起して法の見直しを訴えました。詳しくは、雑誌の28～35頁を読んでください。また、この「明石通信」と一緒にお送りしている法人の会報「あおぞら」に選挙権の話と成年後見制度の課題を書きましたので、お読みくださいますと嬉しいです。

（実践成年後見 No.46:25年7月発行）



さて、新井先生は、私が東大医学部の市民後見人養成講座の1期生の時に知り合い、2期生以降から私は運営委員になり、講座の講師や受講生のあおぞらでの実習受け入れをしており、先生の推薦で学会員になりました（仲介は宮内康二先生）。新井先生は、成年被後見人の選挙権裁判の取材の際にも、私の話をされるようで、マスコミの取材を受けました。朝日新聞5月28日（火）朝刊に「次の選挙に行きます」と題した匠さんの記事の最後に「・・・会見を見守った日本自閉症協会の柴田洋弥政策委員は『成年後見制度は抜本的に見直すべきだ』と指摘する。選挙権同様、後見人などが付くと、制限される権利が他にもあるからだ。代表例は地方公務員。地方公務員法では、後見人や保佐人が付くと職員になれない。自閉症の明石徹之さん（40）は1993年から川崎市職員と



して清掃の仕事をしている。母親の洋子さん（67）は財産管理の面から後見制度の利用を考えたが、『退職を余議なくされる』とあきらめた。日本成年後見法学会理事長新井誠・中央大学法学部教授（民法）は『制度の普及が妨げられている。選挙権以外についても権利の制限を撤廃すべきだ』と指摘する」と言う

記事も掲載されました。取材された小松隆次郎さんは祝賀会にも来られました。記事登場の、友人の柴田さんご夫妻も祝賀会にももちろん出席でした！

4. 講演&旅行の話も少し書きます。（田沢湖ビールは美味！）

1月発行の「明石通信」以降も、徹之と共に日本各地に講演&観光旅行に出かけております。お世話になった各地の皆様へのお礼も兼ねて、順番に書きたいところですが、紙面がなくなりました。今回は割愛させていただき、最近の講演会のみ記載します。



7月31日、8月1日と秋田に行ってきました。秋田県教育委員会からの依頼で、横手市で講演。講演会翌日早速主催者から次のようなお礼のメールが来ました。

・・・「おはようございます。もう、鳥取へむかっていらっしゃるのでしょうか。昨日はすばらしい講演ありがとうございました。270人の参加者のアンケートをざっと読みましたが、ほぼ100%の満足度、何より一番多かったのが、明日からのエネルギーをもらいましたと言う感想でした。もっと時間がほしかった、洋子様のお話をもっともっと聞きたかったという意見もとても多かったです。感謝です！

・・・お役に立った様で、ほっ！
 （翌日は鳥取県の養護学校で講演）。
 秋田も鳥取も、温泉も食事も最高でした。秋田は県内各地で4回目の講演ですが、今回は田沢湖や角館を案内していただきました。徹之は田沢湖ビール（地ビールコンクール世界一）が気に入り、お土産に持ち帰りました。徹之は講演会場の皆様が自分を認めてくれているのが嬉しくて、自己肯定感を回復させているようです。また観光案内もしていただき道路標識や珍しい地名を覚えるのも楽しみのようです。落ち込むと「講演会に行きます！」を連発します。8月27日に行きます大分市教育委員会の講演会のチラシを掲載。

5. 紙面がなくなりましたが、最後に家族写真を。母は相変わらず、認知の程度は日によって良かったり悪かったです。月一回福岡に帰省しては「奈多ケア院」の母を訪問していますが、95才ではリハビリは難しく、車いす生活です。従姉が毎週のように訪問してくれるので、母の寂しさは軽減されていますが、でも「誰が来たかはわからない」ようで…。「私何歳？」の5分おきの質問にカレンダーに年齢を大きく書いて、視覚支援をしています。他に病気はないので、長生きしてくれるでしょう。背筋もしゃんとして、歯も丈夫です。

徹之と泰希のツーショットが微笑ましいので掲載。政嗣の自宅から井之頭公園に行く途中風景です。では、みなさま、これからもよろしく。



（母、もうすぐ96才）



（母の担当職員の手島さん
 「どうぞよろしくお願ひします」）



（仲良し！）



（8月27日開催の大分市教育委員会講演会チラシ）

**平成25年度
特別支援教育講演会**

【日時】 平成25年8月27日(火) 13時30分～16時30分
 〈開場:13時〉

【場所】 大分市コンパルホール 文化ホール(定員500名)

【講師】 明石 洋子さん、明石 徹之さん

【演題】 「ありのままの子育て
 ～自閉症の息子とともに理解と支援の輪を広げて～」

【参加費】 無 料

今回、講師としてお越しいただく「ありのままの子育て 自閉症の息子と共に」(5/20号)著者の明石洋子さん、息子さんで川西市議員の明石徹之さんは、10年ぶりの米県となります。講演会では、徹之さんの写経としてのこれまでの子育てや、地域に理解と支援の輪を広げ、「地域の中で生きる」をモットーに歩んできた過程について、お二人に御講演していただきます。多くの方のご参加を期待しております。



「徹之さんは知的発達障がいがない自閉症です。明石さんは聡明さと熱意とを下地に、気力と体力の両面に輝かすエネルギーとを保持させて、自閉症の人に寄り添うとはこういうことです、という見事なモデルを示されたパイオニアの一人です。」 — 佐々木正美氏（川崎医療福祉大学教授）

「ありのままの子育て 自閉症の息子と共に」序文より抜粋



明石洋子さん プロフィール
 1946年に、埼玉県に生まれる。一歩がいても知識の中で共に生きていく環境を作ろうと、地域作業所やグループホーム、地域生活支援センターを設立し、運営している。社会福祉法人あけぼの共社会副理事長。平成24年2月、厚生労働大臣賞受賞。

明石徹之さん プロフィール
 1972年生まれ。川崎市立川崎高等学校卒業後、1991年から川崎市の公務員(一般職)として働く。現在は川崎市環境・動物物公室 勤務。

お問合せ先 大分市教育委員会 教育指導課 TEL 097-537-5648